

2020 年度（令和 2 年度）

事業計画書

学校法人 正和学園
認定こども園 正和幼稚園

1、基本理念 「いきいき」

私たちは、こどもたちがいきいきと躍動感にあふれる姿を見せることこそが健全な保育が実施されている証明になると信じます。

こどもの成長・発達に寄与する人はすべて保育者と考えます。

2、保育方針 「こども中心」

- ①こどもたちは健全に育つ力を持っています。
- ②こどもたちは素敵な学び手です。
- ③こどもたちは未来を築く参加者の一員です。
- ④好奇心、創造力、感動力において、こどもたちは大人の知らない世界を感じとっています。
- ⑤多様性こそが、力強く新しい未来を作る大きな要因です。

私たちは、これらの事実を認め、子どもの育ちを中心に保育を展開します。

3、保育目標

上記の保育方針を達成するため、次の保育目標を掲げ日々の保育を行います。

- ① それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じとり大切にします。
- ② 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
- ③ 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
- ④ 相手の想いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
- ⑤ 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

4、施設事業運営

(1) クラス編成及び入所児童数 (4月1日) 190名

2歳児 1クラス 18名 (利用定員: 18名)
3歳児 2クラス 66名 (利用定員: 1号児 20名 2号児 41名)
4歳児 2クラス 59名 (利用定員: 1号児 20名 2号児 41名)
5歳児 2クラス 47名 (利用定員: 1号児 20名 2号児 41名)

※3, 4, 5歳の利用定員は全体の合計の範囲内で学年を超えることができる

《内訳》

	1号児	2号児	3号児
1歳児			
2歳児			18 (管外0)
3歳児	20 (管外0)	45 (管外1)	
4歳児	23 (管外1)	35 (管外1)	
5歳児	14 (管外0)	32 (管外1)	

※その他 プレキンダークラス 4名 (定員13名)

(2) 開所時間

7:30~18:30

1号児

【教育時間】

7:30	10:00	14:00	18:30
一時預かり保育	教育時間		一時預かり保育

2・3号児

【保育標準時間】

7:30	18:30
最大11時間 (利用可能な時間帯)	

【保育短時間】

7:30	8:30	16:30	18:30
延長保育	最大8時間 (利用可能な時間帯)		延長保育

(3) 保育料

保育料町田市に一任。延長保育料は以下のとおり。

一号児 一時預かり保育料金 30分:100円

おやつ代:(15:00 1号児) (18:01):100円

5、児童の処遇

(1) 教育・保育内容

教育・保育計画に基づき、養護と教育が一体となった総合的な活動を展開する。

養護	*子どもの安全・健康管理には十分配慮し、落ち着いた環境の中で生活できるように環境・設備を整える。 *一人ひとりの家庭環境・発達状況に応じ、基本的な態度が身につくようにする
人間関係	*人とのかかわりの中で、人を思いやり、人に感謝する気持ちを育てる
言葉	*喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を育てる
遊び (自然) (表現)	*運動——身体を使った遊び。 *構造——玩具を組み合わせるなど構成する遊び。 *創造——イメージを膨らませて表現する遊び。 *想像——模倣・世話・役割遊び。 *言語——言葉に関する遊び。 *音楽——音に関する遊び。 *感覚——互換・操作・探索遊び。農園・栽培活動。

※園だより・クラスだより・保健だより・献立表を毎月配布(園だより、クラスだよりは7.8月合併号)

※その他日々の連絡について、2歳児は各自の連絡を密にする。また、2~5歳児クラスにおいては教育・保育活動内容等を掲示し、園外でもIT等を活用し情報発信し、保護者や地域の方々に伝える。

※2020年度の職員目標

- ① 子どもに関わるひとりひとりが子どもの心に寄り添い 自ら発信し、行動します!
- ② 子どもにかかわるひとりひとりがすべての意味を語り合い意識共有します!

(2) 主な行事・地域とのつながり

- * 日本古来から伝わる風習を伝えるきっかけとして日本の伝統行事を丁寧に行い、子ども自身が日本文化や社会への関心を高める。
- * 年間を通して農園栽培活動を実施。行事と関連付けて行う機会ももつ。
- * 地域とのつながりも強化し、地域の人々を巻き込む。(行事予定については別紙参照)
- * 今年度も、市立中学校・高等学校・専門学校・短期大学・大学の学生の職場体験を受け入れ、異年齢、多世代と触れ合うことにより、多様な価値観があることをふれあうなかで経験する。

(3) 健康管理

保健年間計画に基づき実施する。

【年間目標】

- * アトピー・アレルギー体質の園児に対しては、生活管理指導票（主治医記入）をもとに、園と保護者が話し合い対応する。
- * 与薬についても主治医の指示のもと、園と保護者が話し合い対応していく。
- * 園内や地域で感染症が発生した際は、その状況・病状について掲示し、情報提供する。
- * 感染症対策として、子ども自身が予防の大切さを知る。予防方法等もご家庭に「ほけんだより」等で情報発信するなどして連携して行う。

【健康診断・健康管理】

項目	実施回数	実施者
定期健康診断	年2回	嘱託医
歯科検診	年1回	町田歯科医師会
歯科衛生士による歯磨き指導	年1回	町田市健康福祉課
健康・衛生管理・指導	随時	看護師

(4) 栄養管理・食育目標

- ・「食べる」ことに対する興味・関心を、五感を通してもつきっかけづくりを日常から意識する。
- ・旬の食材を知り、活動の中で発見できるよう配慮し、活動の幅を広げていく。
- ・できるだけ自然食品や安全食品を取り入れる。(産地が分かるよう配慮する)
- ・季節の食材を使用し、いろいろな食品に慣れるよう調理方法を工夫する。
- ・咀嚼の発達を促すため、噛みごたえのある食材を積極的に取り入れる。
- ・行事食にも力を入れ、日本伝統食文化を伝えていく。
- ・アレルギー児や宗教に配慮し、個別対応食を用意する。
- ・毎日の献立の掲示、献立表・おたよりの配布を通し子どもの食育活動の様子や適正量・調理方法などを保護者に伝える。
- ・自分から食べたいという意欲をもつために、適正量を考えられるよう配膳方法など工夫する。
- ・安定感とぬくもりのある陶器の食器を使用する。
- ・温かいものは温かいうちに、冷たいものは冷たいうちに食べられるなど工夫する。
- ・給食献立と保育の融合を図り、子どもたちへの保育活動を広げる。
- ・種・苗植から携わり、成長過程や特性を知り収穫調理を通して、食への関心を高める。

6、災害対策・安全管理

(1) 災害対策

- * 毎月、火災・地震・自然災害を想定し、避難訓練を行う。9月には保護者協力のもと引き取り訓練を行う。
- * 専門業者による防災設備点検、管轄の消防署に報告書を提出。
- * 防災用品の一覧表を作成し、監理・補充を行う。
- * 「子どもの見守りカード」を園児に避難訓練でも配布する機会も設け、引き渡しなどの確実性を向上する。

また、年に1度は「子どもの見守りカード」の更新を行う。

(2) 安全管理

- * 監視カメラで園周囲を監視し、防犯カメラで録画。玄関・各門の出入りは事務室からモニターで監視。
- * 遊具・園舎の安全管理・事故防止マニュアル・チェック表作成、記録。
- * 学校 110 番設置。
- * 警察署交通安全指導。

7、職員の処遇

職員の処遇については、仕事と家庭生活が両立でき、個々が生きがいを持って働くことができる職場作りに努める。長く働けるように、休暇や産休・育休、短時間勤務、家族の看病のための休暇も取りやすい職場づくりをする。せいわりラウンジ（職員休憩室）をより快適に活用する。

「処遇改善1・2 及びキャリアアップ補助金」を活用し、職員の給与の処遇改善のみならず、より明確な組織とキャリアパスを目指す。また、外部研修や関係園などとの合同研修や相互見学などを通し、保育者自身のモチベーションアップにつなげていく。

(1) 採用・産休等

職名	雇用区分	採用年月日	備考
保育教諭	正規	2020. 4. 1	つながりづくり保育園・原町田 for STAFF より異動
保育教諭	正規	2020. 4. 1	町田自然幼稚園より異動
保育教諭	正規	2020. 4. 1	
保育教諭	正規	2020. 4. 1	
保育補助	非正規	2020. 4. 1	つながりづくり保育園αより異動
保育補助	非正規	2020. 4. 1	

【育休復帰】

細藤理紗（つながりづくり保育園・原町田 for STAFF より異動、7月復帰予定）

【産休予定】

なし

(2) 職員の会議

会議名	開催日	参加者
職員会議	月1回	全正規職員
非常勤職員会議	適宜実施	園長・主任・非常勤職員
管理職会議	月1回	理事長・各園園長・各園主任
コーディネーター会議	月1回以上	園長・主任・コーディネーター
週日案会議（学年ごと）	週1回	該当コーディネーター・担当職員
給食会議	月1回	園長・主任・担当職員・給食職員
委員会会議	月1回	委員長・担当職員
ケース会議	随時	園長・主任・担当職員
行事打ち合わせ	随時	園長・主任・担当職員
朝のミーティング	毎日（土曜日除）	園長・主任・担当職員
日々の振り返り	毎日（土曜日除）	園長・主任・担当職員

(3) 職員研修計画

学園全体研修を実施予定。

相馬靖明さんを定期的（2 ヶ月に1回）に迎え、保育環境・内容の充実を図る。

森眞理さんを年2回（6月・11月）に迎え、4月からのストーリーパーク導入後、ポートフォリオ内容記入の迷いへのヒントが得られることを重要視する。

ファシリテータを迎えてのチームビルディング研修と、幹部職員育成のためのリーダーシップ研修を重点的に実施予定。

また、キャリアパスに応じたスキルアップの明示などと連動した、処遇改善の仕組みや個々の職員へのコーチングを体系的に実施することで、各職位に応じた資質向上の取り組みにインセンティブを与える。

研修の計画は、職員の希望も考慮しつつ委員会などの分野をもとに園長・主任が策定する。

8、苦情解決システム

地域・保護者からの意見・要望・苦情を受け付け、保育サービスの向上に努める。

苦情受付担当名：主任

苦情解決責任者：園長

9、子ども家庭支援事業

* 一般型一時保育及び定期利用を、ゆったりとした安心できる環境にて実施する。

* 育児講座、出産を迎える地域の方への保育体験などの機会を設け地域のご家庭にとっても、心のよりどころとなれるようにつとめる。

* 地域活動（ころころひろば）を定期的に行い回数も増やすことや予約システムを減らすことにより、地域の方々が気軽に利用できるようにする。

10、施設・設備整備関係（課題を順次解消）

- * 園庭環境
 - ① ぶどう棚の設置（砂場の上）
 - ② ビオトープ周辺環境整備（井戸水を流すとトイレ関係の水が止まりやすいことへの改善）
 - ③ ピザ窯近く薪置き場設置
 - ④ 焚火ができる環境づくり
 - ⑤ 園庭における野菜・ハーブ等の栽培場所整備

- * 園内環境
 - ① ホールカーテン再整備（色あせ対応のため）
 - ② アトリエテーブル・イーゼル設置

* 給食環境整備 食器購入（園児増加・食器のふぞろいのため）

* ICT 環境の整備 ストーリーパークの導入

* 幼保連携型への類型変更（12時間開所、土曜日、子育て支援事業の充実）

11、新規の取り組み

- ① せいわのくらし（子どもたちの興味関心からの遊びこみやひろがり）を中心にすえた「せいわラーニングコミュニティ」として、行事の名称・あり方を丁寧に再検討する。

運動会 ⇒ 『あきのかぜ フィールドストーリー』

体験することを中心に、身体をうごかすことに心地よさを覚えることも加えた企画。

地域の方々、近隣の大学生（養成校）の方々も巻き込む。

ハッピー オン ステージ ⇒ 『ポレポレストーリー』

5歳児中心。5歳児の様子をみて、触発され、やってみたくなるような1ヵ月後の平日（オープン保育期間中）に4歳児をクラス別に実施。

ハッピー ミュージアム ⇒ 『はるのかぜ アートストーリー』

年間を通して、日々のアート表現活動を充実する。いつでも、やりたいときに自分を表現する1つの方法としてのアートをご家庭と共有する。

- ② 延長保育・一時預かり・土曜日保育時間のカリキュラムをよりよいものに策定する。
 - ・専任の預かり・延長保育カリキュラムコーディネーターを配置する。教育時間での活動と預かり・延長保育時間での活動の連続性なども意識し、その日の子どもの姿にあわせた配慮をしていく。
- ③ 2歳児・3歳児は、クラスを、小グループにし、その担当する担任も決める。
 - ・こどもの気持ちを聴き入ることをより丁寧にする。
- ④ ポートフォリオの保護者との共有システムづくりを強化する。ストーリーパークの導入。
 - ・ドキュメンテーションやポートフォリオなどの「保育の見える化」を推進し、保育の質の向上をはかる
- ⑤ 幼小接続におけるアプローチカリキュラムの策定、実施する。
 - ・七国山小学校との連携を強化する。
- ⑥ 子どもたちの表現活動を大切にし、こどもたち自身が納得できるまでやってみる体験を重要視する。
 - ・素材について丁寧に検討、導入していく。
 - ・戸外でも、アート（表現）活動をしたくなる環境づくりをする。